

令和7年度 豊島区基礎的・基本的な学習内容の定着に関する調査の結果について

Ⅰ 調査の概要

(1) 目的

豊島区立小・中学校の児童生徒の学力及び学習状況を把握するとともに、教員の指導方法の改善に資することで、児童生徒の一層の学力向上を図る。また学校が児童生徒一人ひとりの個別習熟度に基づき、学校における補習、家庭学習の進め方について助言する資料として活用する。

(2) 調査日

令和7年4月23日（水）から5月23日（金）のうち、各校で設定した日

(3) 調査内容

小学校	実施教科
第3学年	国語、算数
第4学年	国語、算数、理科
第5学年	国語、社会、算数、理科
第6学年	国語、社会、算数、理科

中学校	実施教科
第1学年	国語、社会、数学、理科
第2学年	国語、社会、数学、理科、英語
第3学年	国語、社会、数学、理科、英語

2 調査結果

【平均正答率（％）区平均正答率・全国平均正答率】

（ ）は全国との差

(1) 小学校

	学年	小学校3年	小学校4年	小学校5年	小学校6年
国語	区	72.6(+4.9)	72.7(+5.8)	70.7(+4.5)	69.9(+3.6)
	全国	67.7	66.8	66.2	66.4
社会	区			67.4(+0.8)	68.7(-0.6)
	全国			66.7	69.2
算数	区	77.1(+1.5)	77.3(+4.9)	70.4(+2.6)	66.2(+5.3)
	全国	75.6	72.4	67.9	60.9
理科	区		59.0(+2.2)	60.0(+0.5)	63.6(-2.0)
	全国		56.7	59.5	65.7

(2) 中学校

	学年	中学校1年	中学校2年	中学校3年
国語	区	67.0(+2.5)	66.2(+1.2)	64.1(+2.9)
	全国	64.5	65.0	61.3
社会	区	53.0(-0.4)	43.8(-1.8)	46.6(+1.5)
	全国	53.5	45.6	45.1
数学	区	69.6(+2.9)	57.5(+3.9)	58.6(+6.1)
	全国	66.8	53.6	52.5
理科	区	50.5(-2.1)	44.9(-3.8)	51.4(+0.6)
	全国	52.6	48.7	50.8
英語	区		55.7(+4.4)	59.5(+7.3)
	全国		51.3	52.2

*正答率
設問に対して
正答した児童・生徒の割合

(3) 課題となっている教科の観点別結果

①社会の結果

平均正答率 (%)

※全国と比較して、-0.1%~-1.9%

-2.0%~

		小5		小6		中1		中2		中3	
		区	全国	区	全国	区	全国	区	全国	区	全国
観点	知識・技能	66.3	66.3	66.6	66.9	52.8	53.7	43.6	45.8	46.2	44.5
	思考・判断・表現	68.6	67.0	71.8	72.9	53.6	53.0	44.1	45.3	47.4	46.1

②理科の結果

平均正答率 (%)

※全国と比較して、-0.1%~-1.9%

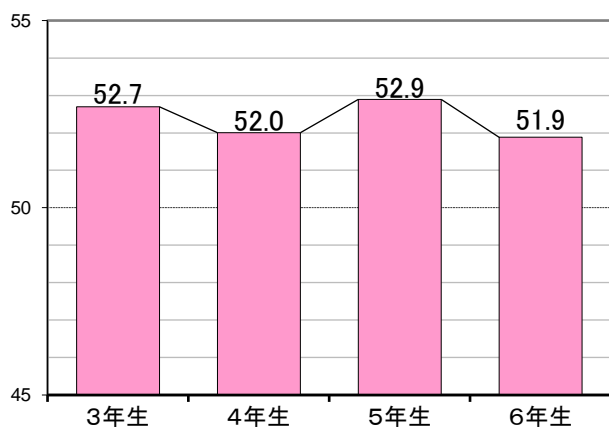
-2.0%~

		小4		小5		小6		中1		中2		中3	
		区	全国	区	全国	区	全国	区	全国	区	全国	区	全国
観点	知識・技能	60.3	59.2	64.4	64.6	63.1	66.3	52.5	55.3	44.1	49.2	51.5	51.8
	思考・判断・表現	57.0	53.3	53.8	52.4	64.4	64.7	47.0	47.9	45.8	48.2	51.3	49.3

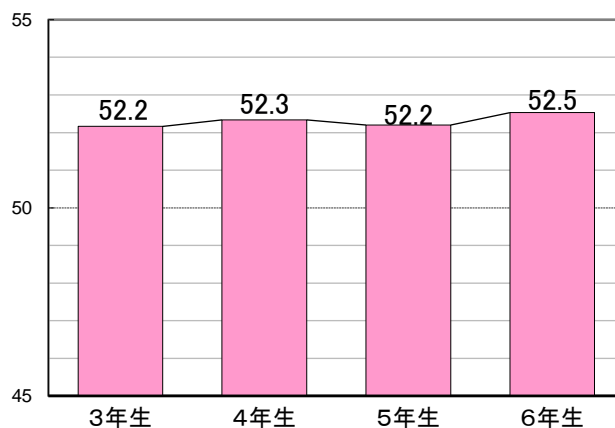
(4) 同一集団における経年比較 (全国の平均正答率を50として比較)

①令和7年度 小学校第6学年

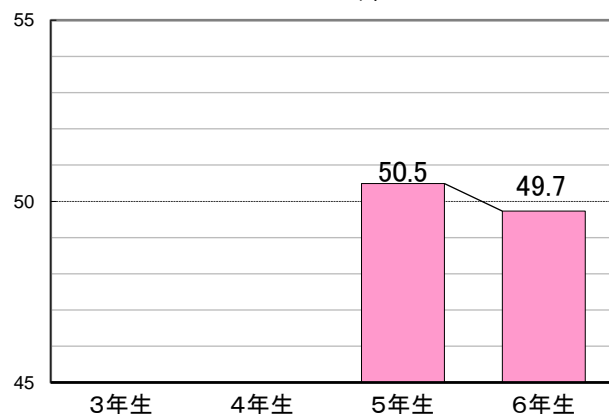
国語



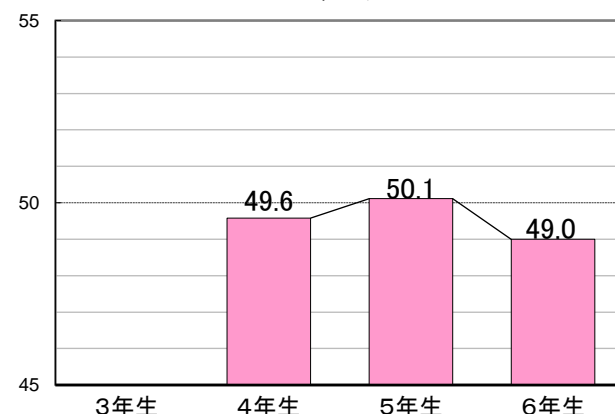
算数



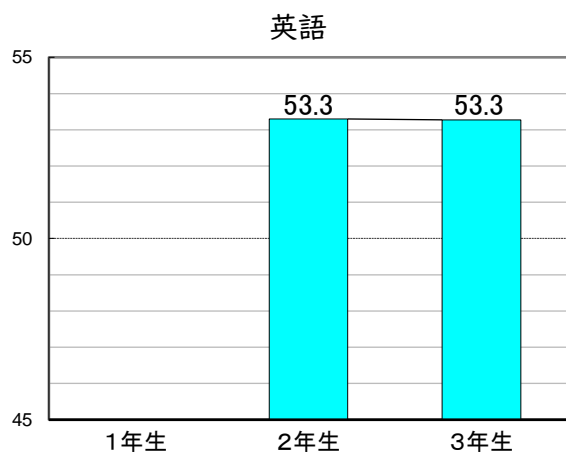
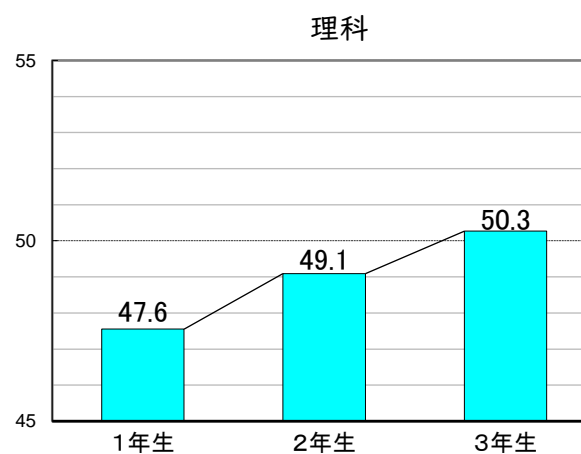
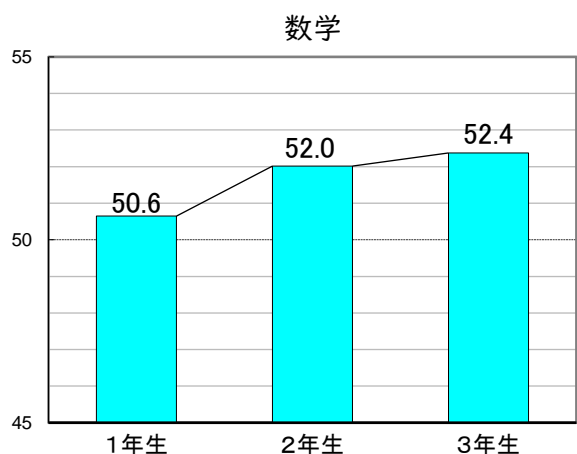
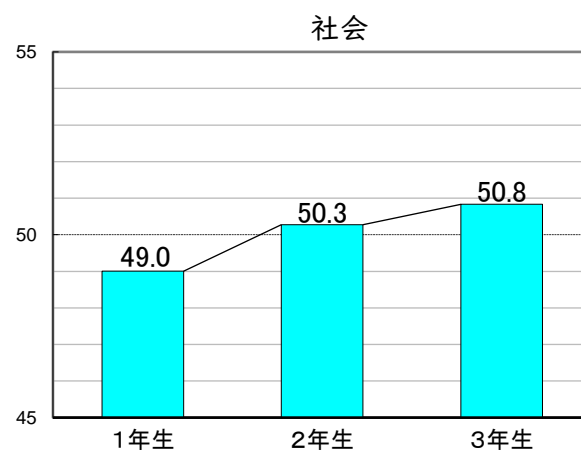
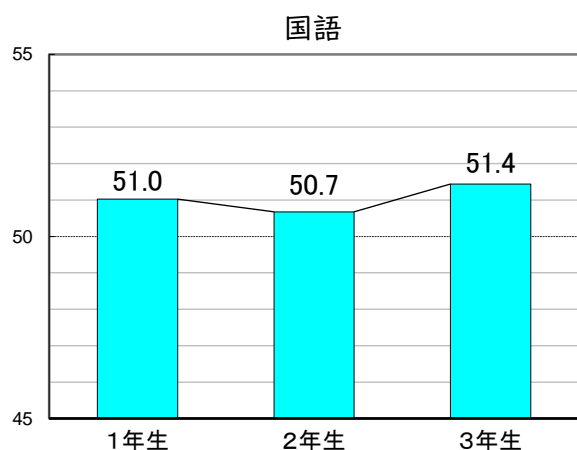
理科



社会



②令和7年度 中学校第3学年



- ・国語、算数(数学)、英語については、すべての学年で全国の平均正答率を上回っている。
- ・同一集団における経年比較の結果より、多くの教科(小学校算数、中学校全教科)で学力の向上が見られる。
- ・理科・社会においては、基礎及び知識・理解において全国平均を下回っている項目が多い。
 - 子どもたちの主体的な学びに結び付けるために、課題解決的な学習を進める必要がある。
 - 授業において、課題に対して解決策を考えたり、自分の言葉でまとめをしたりするなど、子どもたちが学んだ知識を活用して課題解決することで知識を確実なものにする必要がある。

3 今後の方向性

- ・授業改善推進研修(年2回)や指導課訪問等の機会に、教師主導の講義型授業から児童・生徒が主体的に学習を進める授業への転換を図るための指導を継続的に行う。
- ・児童・生徒が学習内容に関心を持ち、見通しをもって学習活動に取り組む中で、知識を活用しながら思考・判断・表現を繰り返す授業展開にする。

【別紙】

授業改善推進プランについて

1 目的

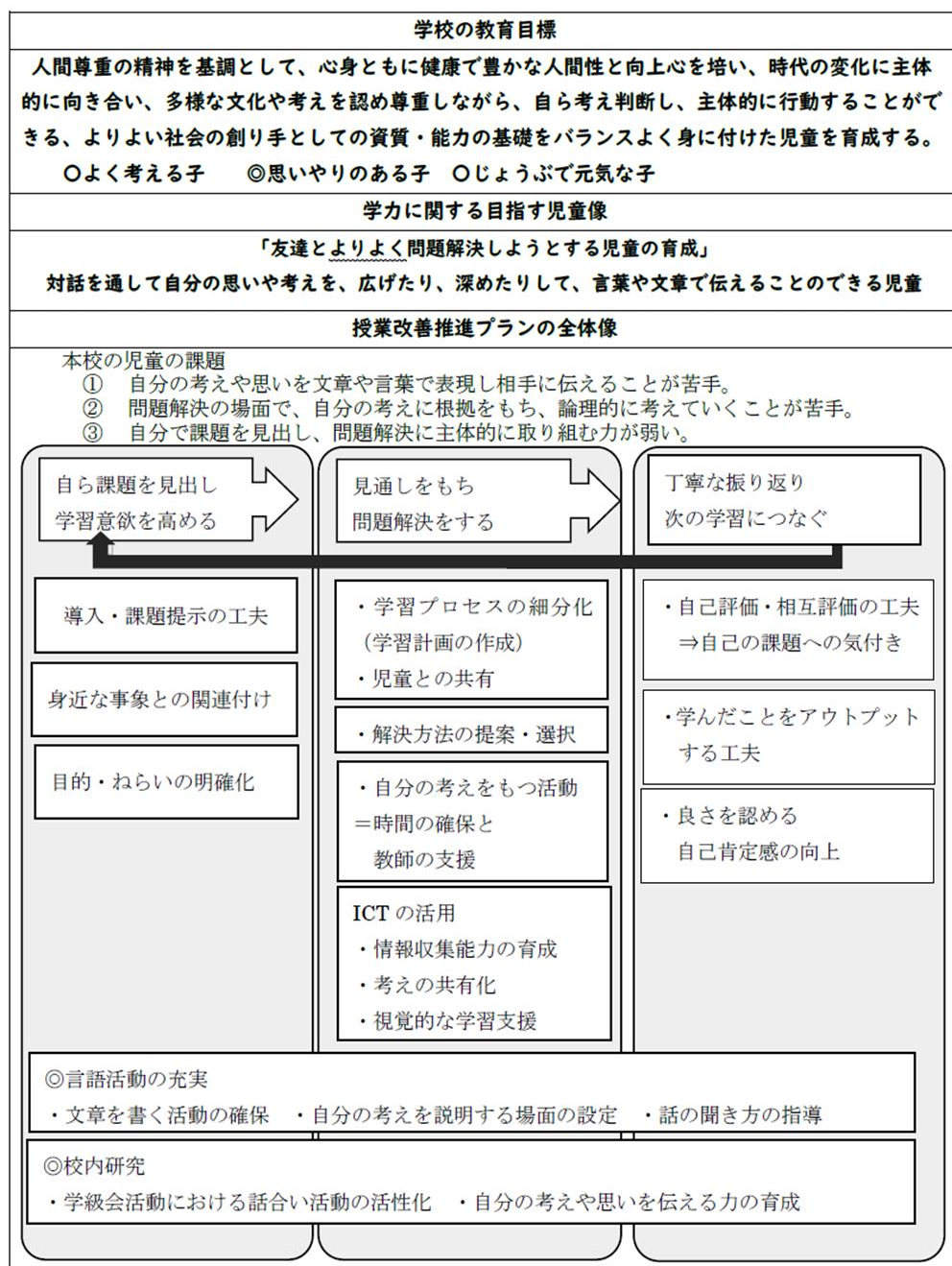
各種調査の結果や日頃の学習の様子から課題を見だし、目指す子ども像の実現に向け、各教科の課題解決や、主体的・対話的で深い学びの視点から一単位時間の授業づくりの具体的な手だてを考え、実践につなげる。

2 内容

(1) 授業改善推進プランの全体像

- ①参考資料「としまっ子の学び」を踏まえ、教員が共通理解して授業改善を推進することを目的に令和5年度から作成
- ②目指す子ども像を基にした各教科での育てたい資質・能力
- ③現在の状況
- ④改善に向けた取組

(2) 令和6年度 授業改善推進プラン例



	理科		
	目指す子ども像を基にした 各教科での育てたい資質・能力	現在の状況	改善に向けた取組
A 小学校	・体験活動を重視し、問題解決のための実験や観察をすることで児童が主体的に考え、学習を深める力	・問題を把握して正しく結果を記録したり主体的に考察したりすることが難しい	・結果の記録の仕方を表や図で表すようにしたり、結果と考察の違いを明確にしたりする。
B 小学校	・自然の事物・現象の性質や働きについての理解を深めるとともに、観察・実験などをおして、問題解決する力	・実験技術が十分に身に付いていない。	・タブレットで実験の様子を撮影し、正確に実験ができているかどうか振り返る。 ・「問題→予想（仮説）→手だて→実験→考察→結論」の課題解決の流れを定着させるため、板書を全校で統一する。
C 中学校	・知識としての学習ではなく、現象の原理を理解しようとする姿勢	・授業で習った内容をその時間中は理解しているが、知識の定着ができていない。	・繰り返し学習を通して、知識の定着を図る。また、単元末プリントなども活用し、アウトプットする場面も多くとり、生徒の実態を把握していく。

	社会		
	目指す子ども像を基にした 各教科での育てたい資質・能力	現在の状況	改善に向けた取組
G 小学校	・資料等から適切に事実を捉え、それを基にして話し合うことをとおして、多様な見方・考え方を働かせながら学習を進める力	・表やグラフなどの資料を正しく読み取ったりまとめたりすることに課題がある児童が多い。	・資料を読み取る視点を明確にし、読み取り方を身に付けさせる。他教科での学習とつなげながら資料活用の経験値を増やしていく。
H 小学校	・社会的な見方・考え方を働かせ、多角的に考察する力	・自力解決に適した資料の選択、必要な情報の読み取りに課題がある。 ・答えを先に追う傾向が強く、知識と社会的事象に結び付けて考える力が十分でない。	・学習問題作りに向けて資料を吟味し、提示方法を工夫する。 ・自分の考えがどの資料で根拠づけられるのかを意識させる問いかけを行い、資料活用能力を高める。
I 中学校	・自ら学び考える力、批判的思考と問題解決能力、他者との協働力	・活発に他者と協働して自力解決する力が備わっている生徒も増えてきたが、対話を通した学びに苦手意識がある生徒も一定数いる。学力の二極化傾向が見られる。	・問題解決的な学習課題を設定して、他者と協働しながら学習する場面を設定して、批判的思考と問題解決能力を育成していく。

（３）令和７年度に授業改善推進プランを生かす取組

指導課	学校
○6/18 教務主任研修 ・教務主任による授業改善推進プランを実効性のあるものにするための研修を実施した。 ○指導主事による学校訪問 ・授業視察をし、授業改善について管理職への指導・助言する。	○9/12 までに授業改善プランを作成する。 ○授業改善推進プランに基づく授業を実施する。 ○校内研究をととした授業改善を継続して行う。 ○授業改善推進プランの振り返りを行い、次年度の教育課程編成に生かす。